

## 2016年度特別研究期間 研究成果概要

所属・職・氏名： 法学部・教授・大東 和重

研究課題：中国語圏文学の研究——シンガポール・マレーシア・香港・マカオ文学を中心に

研究期間：2016年10月1日～2017年3月31日

研究成果概要（日本文（全角）の場合は2,000字程度）

まず、特別研究期間中、研究課題に取り組むことができた点、大学や関係者の皆様に深く感謝申し上げたい。

大東は中国文学・台湾文学・中国語圏の文学を研究領域としており、今回の特別研究期間では、中国語圏の文学、中でも香港・マカオ・マレーシア・シンガポールの中国語文学について研究を進めた。中国語を話す人々は、中華人民共和国のみならず、台湾・香港・シンガポール・各地のチャイナタウンなど、世界中に居住する。中国語を用いて書かれる文学は、中国以外にも広がっており、各地の歴史や文化・民族などとの関わりから、それぞれに特徴ある文学を生み出している。

これまで大東は、中国・台湾文学を主に研究してきたが、近年マレーシア出身で台湾において活躍する作家の作品を翻訳する（黄錦樹著『台湾熱帯文学3 夢と豚と黎明 黄錦樹作品集』大東和重、羽田朝子、濱田麻矢、森美千代訳、人文書院、2011年）など、マレーシアの中国語文学について関心を深めてきた。今回の特別研究期間を利用して、中国・台湾文学と対比するために、独自の歴史を有する香港・マカオ・マレーシア・シンガポールの中国語文学を研究したいと考えた。

特別研究期間に入る直前の9月には、関西学院大学オープンセミナーを担当する機会があった。シリーズ「東アジアのことばと社会」と題する計3回のセミナーのうち、1回を香港に当てて、「移民社会から香港人意識へ - ことばを通して社会の変遷をたどる」と題するセミナーを行った（9月17日）。もう1回はシンガポールに当てて、「多民族国家シンガポールの希望と憂鬱 - 複数のことばを用いる社会とは」と題するセミナーを行った（9月24日）。このセミナーに合わせて、香港とシンガポールに関する過去の研究の整理を行い、準備を整えてから、特別研究期間を迎えた。

半年間の特別研究期間のうち、2016年10月1日から11月1日まで、中国特別行政区香港、及びマカオに滞在した。10月1日から28日までの香港滞在中は、香港中央図書館香港文学資料室を中心に、香港大学図書館・香港中文大学図書館・香港文化博物館等にて調査を行った（日曜日を除く）。香港文学に関する資料を多く収集することができた。10月28日から11月1日までのマカオ滞在中は、マカオ文化局何東図書館・氹仔黄宮均図書館等にて調査を行った（日曜日を除く）。こちらはマカオ文学に関する資料を多く収集することができた。同時に、香港・マカオの新刊書店・古書店で、数多くの文学・歴史関係の書籍を購入した。

つづいて2017年2月には、マレーシア・クアラルンプール、及びシンガポール共和国に滞在した。2月7日から9日まで、及び24日から27日までのクアラルンプール滞在中は、華社研究中心等にて調査を行った。マレーシアの中国語文学に関する資料を多く収集することができた。2月9日から24日までのシンガポール滞在中は、シンガポール国立図書館等にて調査を行った（いずれも日曜日を除く）。シンガポールの中国語文学に関する資料を多く収集することができた。同時に、クアラルンプール・シンガポールの新刊書店・古書店で、数多くの文学・歴

史関係の書籍を購入した。

二度の海外出張をはさむようにして、すでに収集・購入済み、及び今回新たに収集・購入した資料の整理と分析を進めた。成果は今後公開していきたいと考えている。

研究成果の一端はすでに、日本マレーシア学会関西地区研究会にて行った口頭発表「比較文学研究者の見たマレーシア華語文学—出会いと関心の所在」にて公開した（日本マレーシア学会、大阪市立大学、2016年12月10日）。また、日本人の見たシンガポールに関する、西原大輔著『日本人のシンガポール体験 - 幕末明治から日本占領下・戦後まで』（人文書院、2017年）の書評を、『日本経済新聞』に掲載した（2017年4月22日）。

特別研究期間中、以上の二度の出張を含め、「中国語圏文学の研究——シンガポール・マレーシア・香港・マカオ文学を中心に」という課題の研究を進めることができたのは、大学や関係者の皆さまの、ご理解、ご協力のおかげである。今後も継続して論文等を公表し、特別研究期間の利用にふさわしい研究成果を産み出したい。あらためて関係者の皆さまにお礼申し上げる次第である。

研究成果概要は、データは [gakunai@kwansei.ac.jp](mailto:gakunai@kwansei.ac.jp) まで提出してください。